

＝ 時は、今… ＝

今年の委員長メッセージは、「戌年の雑談」でスタートした。あれからもう一年が経とうとしている。年のせいばかりではなかろうが時の経つのが本当に早い。すべての人に平等に与えられたものの一つに時間がある。もちろん、過労死を生むような働かせ方をさせられることは論外だが、一日24時間をどの様に使うかは、個々人の意志と行動によるところが大きい。時の重さを考えることも充実した生活を送るうえで大切なことかもしれない。

ところで、11月のとある通勤の朝、電車を待っていると中学生と思しき少女が電動車椅子でホームの端を進んできた。頭を下げながら「すみません、すみません。」という言葉の後に、「申し訳ございません。」と通り過ぎて行った。誰一人、声をかけるでもなく、人ごみのホームを電動車椅子が通り過ぎる。電車に乗った後、その少女がなぜ「すみません、申し訳ございません。」と言わなければならないのか、言わせなければならないのか、忸怩たる思いが胸を締め付けた。

労働運動に携わって30年あまり。常に相手の立場にたって物事を考え、行動することが仲間との心合わせ、人と人との絆を生む。そしてそのことをみんなで実行すればハラスメントなんてきつと無くなる、と豪語してきた自分が、なぜ「車椅子が通ります、道を開けてください、下がってください。」くらいのことを言えなかったのか。今年一番の情けない出来事であった。

実は今、全国から集まった各組合の役員によるAP19春季取り組み討論集会の最中である。私は、分散会に入ることができないので、一人全体会議場の机をお借りしている。討論集会は、取り巻く情勢等を客観的に把握し互いの共通認識とした上で、自らの業種・企業の実情と職場の思いを語り合い、全体の心合わせのもと具体的な取り組みにつないでいくためのものである。言い忘れや指摘忘れがあってはならない、その場その時の言動が方向性をきめる大事な場面である。

その場その時は、安全・衛生活動にも通じる。毎年、各社、各事業所ごとに安全・衛生管理方針を作成し、職場へ徹底していることは承知しているし、最重要の課題と認識している。その上で、いくつも定められた方針は咄嗟の時に行動として移せるのだろうか悲観的な思いも頭をよぎる。死亡災害撲滅に向けて何らかの発信をしていかなければと考えを巡らしているがなかなか妙案が浮かんでこない。だが、以前、ある造船会社に伺った際、会議室、執務室から現場はおろか、社長室まで、すべて張られた安全標語は一つのみ、「落ちたら死ぬぞ!」。今年、すでに16件17人もの尊い命が失われているが、その状況は、転落・墜落、挟まれ・巻き込まれ、なぜかと思えるくらい毎年続く類似災害ばかりである。造船現場の多くは転落・墜落、鉄鋼・非鉄現場は挟まれ・巻き込まれである。少し悲惨な表現かもしれないが、その現状に合わせた、まさに「落ちたら死ぬぞ!」「巻き込まれたら死ぬぞ!」なのではなかろうか。それぞれの職場特性を見据えた、とっさの判断のための思いを込めた呼びかけはないものだろうか、是非、考えてみてほしい。

被災者の「時」を止める死亡災害はもうなくさなければならない。愛する家族と仲間との大切な時間を奪い去る災害は、私たちの敵である。とっさの時に、行動に移せる意識と行動を見出し、徹底していかなければならない。

今も世界の各地で、職場第一線で昼夜分かたずひた向きに働く仲間がいる。その安全と健康を祈りつつ、まずは、年末・年始を死亡災害ゼロで乗り切り、十二支の最終ランナーとなる亥年につなげよう。

ご安全に

2018年12月11日
日本基幹産業労働組合連合会
中央執行委員長 神田 健一